

全国学力・学習状況調査 結果 白南風小学校

今年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。

県・市の分析を受け、本校の状況を考察した結果です。

今年度も文書での公表とさせていただきますことをご理解ください。

尚、個人票も同時に配付いたしますので、今後のご家庭でのご指導にもお役立てください。

基本的な考え方

学力調査はあくまでも現状把握と、今後
に生かす目的で実施されました。そこで、
「あくまでも一部の結果に過ぎないこと。
結果に惑わされないこと。これからどう生
かすかが最重要課題であること」を念頭におき、
ご覧ください。

学習面について

国語科について

(現状)

- A問題は県平均・全国平均より大きく上回っている。B問題は県平均・全国平均と同程度であった。
- A・B問題ともに、話すこと・聞くことの領域の数値が高い。
- ことわざや漢字等、基本的な国語の知識を問う問題に対する正答率が高い。

(課題)

- A問題（知識面）では、目的に応じ、文章の中から必要な情報を読む問題において県や全国平均正答率から大きく下回る。
- B問題（活用面）では、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題において、全国正答率から大きく下回っている。

(児童アンケートの中に見る国語科の現状と課題)

- 国語科の勉強は大切だと思う、読書が好きだという児童は8割以上と高い値を示した。1日あたりの読書時間は全国平均を上回った。また、新聞を読む児童も多い。
- 話し合い活動において、友達の意見を最後まで聞けないと自己分析している児童が2割近くいた。400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思っている児童が半数以上いる。

算数科について

(現状)

- A問題（知識面）については、県平均・全国平均より上回り、B問題（活用面）についてもそれらの平均を大きく上回っている。
- 分数、最小公倍数、三角形や平行四辺形の底辺と高さなどの基本的事項についての理解が高く、計算力もある。

(課題)

- A問題（知識面）では、小数倍の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができない児童が20名ほどいた。
- B問題（活用面）では、示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現する問題において、やや下回る。
- 記述式の問題において、無解答率が高い。

(児童アンケートの中に見る算数科の現状と課題)

- 算数科の勉強は好きだ・大切だと感じる児童が多い。また授業内容がよくわかるという児童は9割と高い値を示した。一方で苦手意識をもつ児童は、問題を解くのをすぐにあきらめてしまう傾向にあることが課題である。

生活面について

児童への学習面・生活面でのアンケート集計結果から読み取れたことを紹介します。

まず、良かった点としては、

- ・毎日、同じ時刻に就寝している
- ・最後までやり遂げたという達成感を味わっている
- ・自己肯定感が高い児童が、県や全国平均よりかなり多い
- ・学校に行くのが楽しい
- ・学校で友達に会うのが楽しい
- ・学校で好きな授業がある
- ・国際的な協力に関心がある
- ・地域や社会で起きている問題に関心がある
- ・授業では、めあてやまとめを意識した学習をする

逆に低い値を示した設問、気になった点としては、

- ・友達の前で自分の考えや意見を最後まで話す
- ・地域の行事に参加する
- ・失敗を恐れず挑戦する
- ・家で学校の授業の予習や復習をする

でした。



今後の対策等

今回の結果を受けて、子どもたちは学習に対する意欲・関心が高く、学習内容も十分理解していることがわかりました。また、これまでに学習した内容を上手に活用し、発展的な問題や生活面での問題解決に生かすことができる児童の割合が高いこともわかりました。一方で、グラフや表、文章の中から必要な情報を読み取る力や問題解決のために図などを表し、解決の道筋を考える力に課題があることがわかりました。

現在も、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間で、事象から問題を発見し、友達と話し合って解決の方法を決め、問題を解決していく活動を通して、普段の生活や学習の問題場面に必要な思考力や表現力といった「問題解決能力」を付けさせるよう授業を工夫しているところです。さらに、本年度の結果を真摯に受け止め、取組を充実させていきたいと思います。

学力向上に向けた今後の方針としては、1つめは、授業の中で、課題意識を持たせ、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を展開し、根拠をもとに考えさせたり、書かせたり、発表させたりして力をつけていきます。

2つめは、児童アンケートから明らかになった課題を解決することです。家庭での学習習慣の状況を見ると、与えられた宿題はやっているのですが、個に応じた予習や復習は十分ではないようです。また、家庭学習の時間も全国平均並でしたが、やっている子やらない子の差が激しいようです。6年生は、120分間を家庭学習の時間に充てて、宿題のほか個に応じた学習を進めるよう指導していきます。

家庭学習の時間が十分でない要因として、テレビやゲームの時間が長いことが挙げられます。白南風小6年生の平均時間は、全国平均よりも長く、反対に読書の時間が短くなっています。読書好きな児童がほとんどですので、テレビ視聴やゲームをする時間を、新聞を読んだり、家族で10分間読書に親しんだりするように働きかけていきます。学校でも、1年間で一人111冊を目標に読書活動に取り組んでいるところです。

今回の調査からいろいろなことが読み取れました。これからも毎日の積み重ねを大切に指導してまいります。今後も引き続き、本校教育活動へご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。